

きずなを深め50年… 未来へつなぐ 福祉の心

～社会福祉協議会創立50周年記念事業～

9月26日(土)、27日(日)の2日間、市民会館で『あなたとともに50年 キラリ輝く未来のきずな』をキャッチフレーズに『登別市社会福祉協議会創立50周年記念事業』（同実行委員会主催）が行われました。

記念事業は、オープニング「コラボレーション『みとめあう』2009“きずな”」で始まり、大人も子どもも、障がいのある方も、ない方も一緒に力を合わせて、福祉のまちづくりを成し遂げていく様子を表現した市民参加型の音楽劇『おおきなかぶ』では、約150人の参加者が力を合わせてステージに引き上げたカブに扮したくす玉が割れると50周年を祝う垂れ幕が飛び出し、会場から大きな拍手が沸き起こりました。15時からは落語家三笑亭夢之助さんによる記念講演、26日は社会福祉大会やきずなシンポジウムなどのイベントが行われ、また、館内に設けた、NPO・ボランティアなどの体験コーナーや障がい者作品展示・授産製品の販売コーナーでは、作品を鑑賞したり、気軽に体験をするなど盛り上がりを見せ、野外特設会場での足湯コーナーや各種飲食屋台などにも多くの方が詰め掛けました。



縄文時代にタイムスリップ

～登別縄文どきどきまつり～



▲火起こしに取り組む子どもたち

10月3日(土)、カント・レラで『登別縄文どきどきまつり』（市・縄文どきどきクラブ主催）が行われました。

この催しは、縄文文化の体験を通して、その世界観や自然観などを学びながら豊かな心をはぐくむことを目的に行われ、今年で2回目の開催となります。

10時から始まったイベントは、黒曜石のナイフ作りや勾玉作り、土器の野焼きや火起しなどの体験、『縄文風クッキー作り』、『縄文講演会』が行われるなど内容が盛りだくさん。参加者は早速、黒曜石を削りナイフを作ってみたり勾玉作りに挑戦したり、縄文時代を思わせる衣装を身に付けシカ的をめぐって弓矢を打つなど縄文生活を満喫していました。

また、黒曜石のナイフで切ったサケを入れた縄文鍋や土器の野焼きコーナーでは焼きいもが振舞われるなど身も心もお腹も大満足の秋の一日を過ごしていました。

健康づくりは食生活から

～家族で楽しい！ 食育フェスタinのぼりべつ～

10月4日(日)、市民会館で『家族で楽しい！食育フェスタinのぼりべつ』（市主催）が開催されました。

この催しは、今年度の特別予算枠に設けられた『明日のまちづくり事業』の一つで、食育をテーマに栄養や食に関心を持ってもらうことを目的として開催されました。

テレビでおなじみの料理研究家東海林明子さんを講師に迎えたクッキング講座では、シーフードデミカレーなど栄養バランスの取れた4品の実演を、調理のポイントを交えながら手際よく行い、最後に参加者全員で試食を行いました。

また、そのほか会場内では、体脂肪や血圧などを測定する健康相談コーナーや、栄養士による栄養相談コーナーなども行われ、参加者は食育の大切さについて理解を深めていました。



▲東海林明子さんを招いたクッキング講座